

「咲う」

京都市立御所東小学校 校長

河原雅春

学校教育目標を「笑顔 夢 ひらめき いっぱい 御所東」とし、「探究する子」「やさしく、たくましい子」の育成を目指し、表題の「咲う（わらう）」のように、子どもたちが、「できた」「わかった」「やった」という喜びの声があふれ、花が咲くような笑顔をたくさん見ることができ学校を目指しています。

また、本校の校歌の歌詞にもあるように、不思議をもとめて探究する姿、みんなで協力して力を合わせる姿、今を大切に

御所東小学校 校歌

作詞 山本 純子
作曲 平田 あゆみ

一 鴨の流れに 息づくいのち

季節のめぐりを 探しに行こう

こころはいつも ふしぎを求めている
みんな 力合わせて 解き明かせば

未来は きつと美しい

御所東小学校

二 日々の学びの 一つ一つが

大きな夢へ つながっていく

流れがいつか 海へ届くように

朝日を 浴びて輝く この場所から

世界へ 一歩踏み出そう

御所東小学校



京都御苑には、一年生が生活科の学習で季節のめぐりを探しにいたり、秋には、全校児童がウオークラリーをしたりするなど、子どもたちにとって親しみのあふれる場所となっています。今回、三年生の総合的な学習の時間の取組について詳しく紹介いたします。



三年生では、御苑から届いた「京都御苑きせつのはたより」をもとに、身近にある京都御苑をフィールドとし総合的な学習の時間の学習を進めています。御苑の「母と子の森」を何度も訪れ、実際に自然を心と体全体で感じる中で、新しい発見や不思議を見つけ、子どもたちが目を輝かせながら、ワクワクと学びを深めている姿が印象的です。

例えば、「どれくらいの種類か」「樹木があるのか」「キノコのあせの正体は何だろう」「どうしてまっぼっくりは緑色をしているのか」「どんな虫がいるのだろうか」など、解決したい不思議ごとにグループをつくって、調べていきました。本や図鑑、インターネット等ではわからないことについては、国民公園協会京都御苑の職員の方々が、「母と子の森」で、テーマごとに分かれて、子どもたちが調べたいこと、不思議に思ったことについて、丁寧に教えてくださいました。そのおかげで、子どもたちの調べたいことがわかったり、解決したりすることができました。自分の不思議がわかって、次々に新しい「なぜ」「おもしろい」が生まれ、そこから、さらに「知りたい」「調べたい」と、子どもたちの探究する気持ちは続いていきます。このように、不思議に思ったことを自分なりの方法やインタビュを通して調べ、それを表現し、また、新しい不思議を調べていく過程は、



これからの社会でも生かされていくのではないかと思います。

総合的な学習の時間「ふしぎ発見！御苑の森！」において探究を重ねる中で、子どもたちの



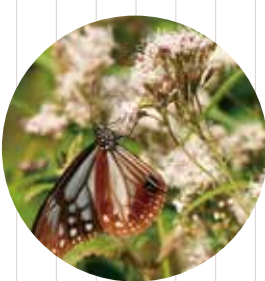
「できた」「わかった」「やった」という喜びが花開き、「咲（わら）っている」姿があふれる学習となりました。

学校のすぐそばにある風光明媚な京都御苑。そして、自然を守り育てておられる方々との出会いは、子どもたちの学びを豊かにし、未来へとつながる大切な財産になっていると感じています。



きせつのはたより

年四回、お子様と保護者、保育園・幼稚園の先生方に向けた季刊紙「きせつのはたより」を発行しています。京都御苑の四季折々の見どころを紹介しており、秋号でよくご案内するのは、千キロの旅をする蝶「アサギマダラ」とその吸蜜花「フジバカマ」です。「フジバカマ」は秋の七草の一つとして知られており、その香りは平安時代から重宝がられてきました。閑院宮邸跡庭園でも観察していただけます。



フジバカマとアサギマダラ

秋号ではキノコの紹介も喜ばれています。秋の御苑ではキノコ・草花・昆虫を観察している子どもたちの歓声が響き、越冬準備に入る蝶「ウラギンシジミ」が子供たちの周りを飛び回ります。その飛び方は夏に比べて、少しは穏やかになっており季節の移ろいが感じられます。

●季刊紙「きせつのはたより」はホームページ上でPDF版を公開しており、最新号やこれまでのバックナンバーもご覧いただけます。入手を希望される保育園・幼稚園の先生方がおられましたら、ご一報をいただければと存じます。

京都御苑の

自然散策のすすめ

京都自然学習会代表グリーンセイバー検定 検定委員長

片山 雅男



凝華洞跡 イチョウ



母と子の森

京都御苑のなりたち

京都御苑は賀茂川と高野川の氾濫原に位置しています。ここは、平安京の東北隅にあたりますが、幾度かの大内裏焼失の後、鎌倉時代末に里内裏であった土御門東洞院殿を御所としたものです。江戸時代には、御所の周りに宮家や公家の屋敷が集められました。明治の東京奠都によって、多くの公家屋敷が無住となって荒廃し、治安上の問題が起きます。そこで、明治十年の大内保存事業によって、屋敷は撤去され、外周石垣土塁や苑路が整備され、樹木の植栽等が行われました。九條池、近衛池は、閑院宮邸や中山邸とともに残されました。広大な苑地はそれ以降、場所ごとにきめ細やかな管理が施され、さまざまな植生や景観が生まれました。これらの多様な生態系は、今では、多くの生き物に住处を提供し、生物多様性の高い都市空間となっています。

苑内の自然散策へのいざない

京都御所と京都仙洞御所を取り巻く玉砂利の苑路は、防火帯の機能に加えて、御苑の代表的な景観を作り上げています。また、建礼門から南に続く広い苑路は春の葵祭や秋の時代祭の



カンサイタンポポ

表舞台でもありません。これらの苑路に沿った芝地には、定期的な芝刈りによって、カンサイタンポポやマツバウンラン、ニワゼキショウ、ネジバナなどが生育し、シロツメクサやムラサキサギゴケなどもマット状に広がっています。点在するクロマツとアカマツには自然樹形に仕上げる御所透かしの剪定が施されています。重厚なモミの大木と、イロハモミジやヤマザクラ、イチョウなどの植栽と相まって、御苑ならではの開けた空間となっています。また、さまざまな花木も配植され、四季を通じて楽しむことができます。コブシの花が早春を告げ、近衛邸跡のシダレザクラに続いてサトザクラが開花します。少し遅れて出水の小川では普賢像や閑山などのサトザクラが春を彩ります。薄緑色の御衣黄や車返桜も一見の価値があります。タイサンボクの大きな白い花や神楽鈴のようなトチノキ



近衛邸跡 ヤエベニシダレ

の花も見られます。やがてクマゼミの鳴き声とともに赤や白のサルスベリが咲き、御苑に夏が訪れます。秋にはイチョウが黄色く色づき、イロハモミジに加えて、ヤマザクラの紅葉も見事です。冬枯れの苑内では、児童公園などでロウバイが黄色い花を咲かせています。芝地は御苑の中で、最も人手が加わっていませんが、植物の四季の移ろいを感じ取れる貴重な空間になっています。

御苑の中の里山

御苑の中で、敢えて手を加えない区画があります。石薬師御門を入った南側、母と子の森は京都周辺の里山を模して造られました。北から西側にはコナラやクヌギの明るい落葉樹の林があり、東側のバードバスには、水を求めてさまざまな鳥が飛来します。南側にあるムクノキやケ

ヤキ、エノキの大径木の林は、賀茂川の氾濫原であった京都御苑の原風景ともいえるものです。自然関係の書籍を集めた愛らしい森の図書館もあります。京都迎賓館の西側には落葉広葉樹の明るい森としてバツタが原が、東側には常緑樹を交えたやや暗い森のコオロギの里が造られています。児童が草で遊び、昆虫に触れられる場所として一九八四年に設置されました。あえて芝生にせずに、草刈りも少なくして、多くの野草や昆虫が見られます。



トンボ池 全景

御苑の南東部には、森に囲まれてトンボ池があります。一九九六年に閑院宮邸跡の池の泥土を敷き詰めて作った人工の池です。泥の中の種子が発芽し、今では、ガマやショウブ、ハンゲショウなどが繁茂し、モリアオガエルやオオシオカラトンボなども見

られます。環境保全と危険防止のため年に数日のみ観察可能です。下立売御門を入ったところには、出水の小川が設けられ、セキショウなども生育しています。

御苑の外周は石垣土塁で囲まれ、ウバメガシの生垣になっています。ムクノキやエノキの大木とともに、結果として市街地の喧騒から苑内を守っています。土塁の内側の多くはほぼ自然状態に置かれ、ムクノキ、エノキ、ケヤキに加えて、コジイやスダジイの大径木の林が見られます。

御苑は心のオアシス

一八七七年の大内保存事業開始以来、約百五十年の歳月をかけて絶え間なく人と自然が作り上げてきた京都御苑は、時代の要請に応じてさまざまな環境が整備され、都市部にあって歴史的な景観と多様な生態系を創出してきました。こうして生まれた「自然」は多くの生き物をはぐくみ、豊かな生物多様性を生み出しています。京都御苑を訪れたときには、苑内をゆっくりと散策され、その景観を楽しむとともに、そこに息づく生き物たちの暮らしぶりを愛でていただきたいと思います。

京都御苑会員募集

■ 会員特典

1. 京都御苑NEWSの送付
2. 葵祭・時代祭の観覧席招待券進呈(普通会員は会費4,000円以上の方)

■ 年会費

- 普通会員 ……1,000円以上
- 賛助会員(会社・団体) ……10,000円以上

■ 申込・お問い合わせ

(一財)国民公園協会 京都御苑 Tel 075-211-6364

SNSで京都御苑の最新情報をチェックしよう！

京都御苑 広報
X京都御苑 広報
Instagram京都御苑
中立売休憩所
Instagram

(編集担当より)

今号より新聞スタイルの紙面構成としました。昭和59年の初刊から平成27年まで採用していた形式であり、どこかレトロな雰囲気を感じていただければと考えています。教育の場や地域コミュニティの拠点として京都御苑を活用いただけるような情報発信を強化していきたいと考えています。引き続き皆様のご愛読をお願いいたします。